

令和5年産 仙南稲作情報（第5号）

令和5年7月25日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 高温・多照で推移し、稲の生育が進んでおり、出穂期は平年より早い（南部平坦は7月26日頃から出穂）。
- いもち病の発生がやや多くなっています。ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。
- 減数分裂期の追肥は、適切に実施しましょう！
- 穂揃期には斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう！

1 気象経過（丸森アメダス、6月20日～7月19日）

- ・6月後半から7月19日までは、最高気温及び最低気温ともに平年を上回る日が連続し、高温傾向（平均気温+2.9℃）で推移した。期間中の降雨量の合計は平年値の約半分（89.5mm）であり、日照時間が長かった（136%）。また、東北地方は7月22頃に梅雨明けしたとみられます。

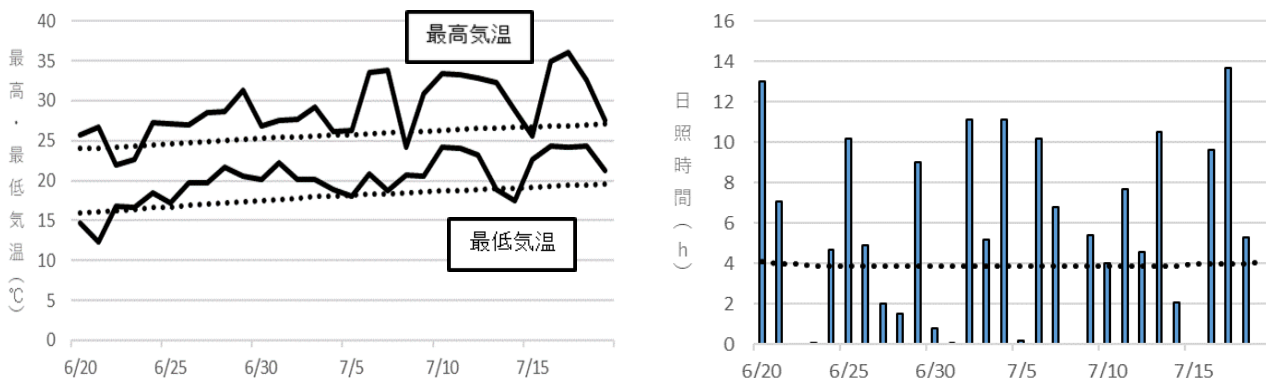


図1 気象経過（丸森アメダス、6月20日～7月19日）

※仙台管区气象台（7/20発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間と降水量はほぼ平年並、気温は高い見込みで、特に期間の前半（7/22～8/4）は、高くなる見込みです。

2 管内の生育状況

【7月20日調査結果】

（水稻生育調査ほ結果）

- ・南部平坦の「ひとめぼれ」生育調査ほは、幼穂長が角田市は約193mm、大河原町は約177mmで、「穂ばらみ期」を迎え、出穂期が近づいています。
- ・南部平坦の「つや姫」調査ほは、5月上旬植えは、幼穂長が約58mmで、「減数分裂期」に入っています。5月下旬植えは、幼穂長が約2.7mmで「幼穂形成期」を過ぎています。
- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、幼穂長が約81mmで、「減数分裂期」の終期に入っています。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、幼穂長が約34mmで、「減数分裂期」に入っています。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にしてください。

□ 管内の生育調査結果（7月20日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/11	5/18	86.7	115	110	400	91	126	12.8	0.0	0.1	34.6	▲ 2.1	▲ 2.3	193.2	91.6	143.9
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/6	5/7	85.9	110	106	499	90	96	13.6	1.2	1.2	31.4	▲ 1.2	▲ 0.7	176.8	73.6	84.6
南部平坦平均 ひとめぼれ				5/8	5/12	86.3	113	108	450	90	111	13.2	0.6	0.7	33.0	▲ 1.7	▲ 1.5	185.0	82.6	114.3
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/24	5/23	79.2	110	104	398	82	99	12.2	0.9	0.9	41.3	▲ 1.5	▲ 2.5	2.7	▲ 0.2	▲ 1.8
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/2	5/4	76.8	102	98	488	120	126	12.6	0.5	0.8	35.0	▲ 2.6	▲ 1.1	58.1	39.3	43.3
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/18	5/13	72.0	106	103	425	116	109	12.9	1.1	1.3	36.8	▲ 2.3	▲ 6.1	80.5	40.5	71.4
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/25	5/23	67.2	104	103	445	90	93	10.9	0.3	0.6	39.3	▲ 3.3	▲ 1.5	34.4	15.3	22.2

◆ 平年値は前5か年(H30～R4)の平均値

※ 角角田市「つや姫」は調査5年目のため過去4年の平均値を平年値とした。村田町「つや姫」は調査4年目のため過去3年の平均値を平年値とした。

□ 「だて正夢」調査ほ

- ・ 南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長約 219 mm で「穂ばらみ期」に入っており、間もなく出穂すると見込まれます。
- ・ 西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長約 19 mm で、すでに「幼穂形成期」を過ぎ、間もなく「減数分裂期」に入ってくると見込まれます。
- ・ 葉色は、生育ステージ毎の目安の数値（減数分裂期：37～39、出穂期：35～37）に近い値を示しています。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/7	5/6	92.7	106	338	91	13	0.2	37.9	1.4	218.6	50
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/19	5/21	84.3	106	460	121	11.6	0.3	39.0	▲ 4.4	18.5	14.5

3 今後の管理

【出穂時期の予測】

- ・ 出穂は、ほ場毎に異なります。幼穂長を測定するか、葉耳間長を確認して、出穂までの日数を把握しましょう。葉耳間長は、±0（葉耳が重なっている時期）が出穂 10～15 日目の目安です。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
幼穂長	1～2mm	30～40mm	80～100mm
葉耳間長	—	-10cm	± 0 cm
出穂前日数	25日	15日	12日

- ・ また、出穂は天候の推移により前後してきます。好天が続けば出穂期は早まり、低温日照不足が続けば生育が鈍化しますので天候の推移にも注意しましょう。
- ・ 現在の生育状況からすると、平年よりも早い出穂期が見込まれます。5月前半に田植した中生品種（ひとめぼれ等）の場合、南部平坦地帯では、既に一部のほ場で出穂が確認されています。また、西部丘陵地帯では8月初めごろから、山間高冷地帯では8月初め～10日ごろから出穂してくると予想されます。

【水管理】

①通常の水管理

- 出穂期までは、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給できるように間断かん水としましょう。かん水して、自然に水がなくなった後、2～3日田面を乾かしてから、かん水して下さい。
- 出穂開花期は水を最も必要とする時期なので、浅水管理とします。
- 出穂開花期を過ぎたら、間断かん水を行いましょう。
- 収穫作業前の落水の適期は出穂後25日目頃が目安になりますが、ほ場の保水力（乾きやすさ）や天候による乾湿の状態などを考慮して決定しましょう。
- ◆ 倒伏が心配されるほ場では、間断かん水をする際に、田面を乾かす期間を長めにとり、根の健全化を図りましょう。

②出穂後の高温時の水管理

- 出穂後の20日間で最低気温が23℃以上となる異常高温が連続するような場合、乳白粒などの「白未熟粒」による品質低下が発生するおそれがあります。高温時には、可能な限りの対策を取りましょう。

[対策の例]

掛流しかんがい	気温より温度の低い用水を十分に掛け流すことで、水温及び地温を湛水状態より低く抑える方法。ただし、10a当たり毎分200～300リットル程度の用水が必要。
昼間深水・夜間落水管理	掛流しかんがいよりも水温及び地温を低下させる効果は小さいが、十分な用水量を確保できない場合でも実行しやすい方法。午前9～10時頃かん水し、気温が水温を下回り始める午後4時頃に落水。
飽水管理	掛流しかんがい程の効果は得られないが、慣行（常時湛水）よりも夜間の最低地温が低くなるとともに、根の活力維持に効果あり。

【追肥】（田植えの遅いほ場など、これから必要となるほ場のみ）

- 減数分裂期をむかえると葉色が低下してくる傾向があります、必ずほ場毎にイネの生育状況を確認し、追肥の時期と量を判断しましょう。
- 穂揃期以降の急激な葉色低下は、高温時の白未熟粒の発生に繋がりがやすいので、登熟期間の窒素栄養を維持する減数分裂期の追肥を適切に実施しましょう。
- なお、中干しが不十分な場合や生育量が大きい場合は、慎重に判断しましょう。
- 追肥後は、一時的に「いもち病に対する抵抗力が弱まる」ので注意しましょう。
- 「だて正夢」は、減数分裂期に窒素成分で10a当たり2kg追肥することが基本です。

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・ まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

【 病 害 虫 防 除 】

①いもち病

- ・発生量は「やや多」と予報されています。ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。
- ・梅雨明け以降、管内のアメダスポイントでは「いもち病」の感染に好適・準好適な条件が出現していますので、ほ場の見回りをこまめに行い、早期発見・早期防除に努めてください。
- (※JAこだわり米等に取り組んでいる場合は、防除の前にJAに相談してください。)

②斑点米カメムシ類

- ・水田周辺の雑草地、けい畔等の草刈りは終了する時期です
- ・穂揃期の薬剤防除に向けて準備を！

□管内の出穂期は平年より早くなる見込みです。今後の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込むことになるので、避けましょう。

□殺虫剤による薬剤防除

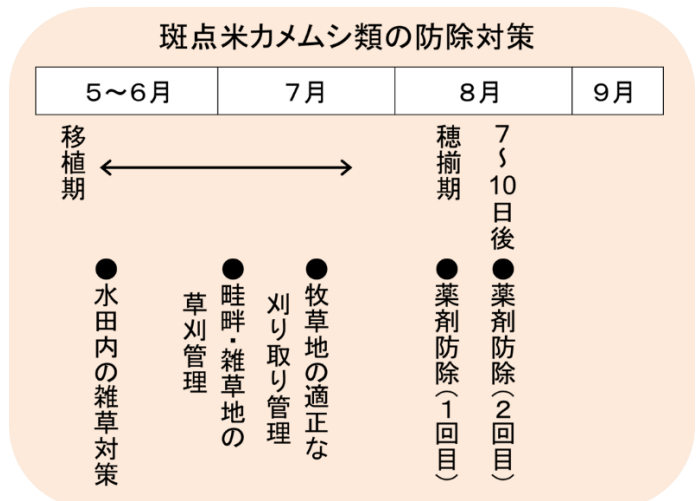
- ・薬剤防除は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本です。
- ・早生品種など周辺ほ場より出穂が早いと、被害が集中する危険性が高まりますので、穂揃期に遅れずに薬剤防除しましょう。

□薬剤防除は広域的に行うと効果が高いため、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。→残草がある場合は、1回目の防除時期を早めましょう(出穂始~穂揃期)。

< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ



4 直播栽培における管理のポイント

【7月20日調査結果】 ～間もなく「減数分裂期」。穂もち予防防除を！～

- ・湛水直播栽培の展示ほの生育については、幼穂長約 10 mmで幼穂形成期を過ぎています。
- ・生育は概ね順調に推移しています。

□ 直播きの生育調査結果(7月20日)

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/10	5/10	47.6	62.5	73.1	106	483	87	11.9	1.7	37.5	▲ 8.0	10.2	6.7

① 水管理

- ・中干し以降の水管理は、間断かん水を行いましょう。

② 追肥

- ・減数分裂期の生育を確認して、減数分裂期の追肥を考慮しましょう。追肥量は窒素成分量で 10a 当たり 1kg が基本です。
- ・減数分裂期になっても葉色が濃い場合など、倒伏等の恐れがある場合は追肥を控えましょう。

③ 病害虫防除

【いもち病】

- ・いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ (イチモンジセセリ)】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では7月中旬の葉色が濃いことから、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生状況を観察して、適期に防除しましょう。(概ね7月末から8月上旬)



幼虫
ツト (ツトの中に蛹がいます)
☒ イネツトムシの幼虫・ツト・成虫

成虫

○令和5年度宮城県農薬危害防止運動実施中 (6/1～8/31)

○これから暑い時期を迎えます。熱中症に注意しましょう。